

平成27年度 学校自己評価表 (最終評価)

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p>	<p>1. 誠実な心を育て、たくましく生きる力を養い、個性豊かな人間形成を図る。 2. 実践的な学習をとおして、創造する喜びを体験するとともに自主・自律の態度を養う。 3. 様々な教育活動をおとして、他人を思いやり、友情を育み、心身ともに健全な態度を養う。 4. 望ましい勤労観・職業観を育て、地域産業を支える人材を育成するとともに地域の発展に貢献する。</p>	<p>今年度の重点目標</p> <p>1. 心身ともにすこやかな身体づくり 2. 就職と進学に応えられる学校づくり 3. 地域・地元へ愛され、信頼される学校づくり 4. ものづくり教育の推進</p>
---------------------------	---	---

評価項目	評価の具体項目	現状	年度当初 目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価結果 3月 評価	改善方策
1. 心身ともにすこやかな身体づくり	<p>生徒一人ひとりを活かす人間教育を促進し、いじめや差別のない望ましい人間関係を構築していく。 低学年からの意識づけを大切にして、正しい倫理観・道徳観を身に付けさせ、基本的な生活習慣を確立させる。特に「あいさつ」「服装」「時間を守る」を大切にす。 部活動の教育力を活かして、心身を鍛えるとともに基本的ルールやマナーを体得させる。 家庭と協力しながら情報モラルについての意識を高める。</p>	<p>ほとんどの生徒が、気持ちよくあいさつをすることができ、服装、マナー、エチケットも向上しているが、学校外において校内と同じ意識を持つという点では、まだ不十分な面がある。 全校の90%が無遅刻であり遅刻の数はたいへん少ないが、特に低学年において防げる遅刻の割合が多い。 ほぼ100%の生徒が携帯・スマホを所有し情報の利活用や人間関係を広げつつある。 部活動には90%以上の生徒が加入し熱心に活動している。</p>	<p>○全校の遅刻回数が年間8%(43回)以下となる。 ○朝読書の時間は全校が静かな環境で落ち着いて読書を行う。 ○社会人として通用するマナー、身だしなみ、言葉遣い、+αのあいさつが実践できる。 ○情報化社会における正しい判断や望ましい態度を身に付けさせる。 ○「ルールやマナーを守る」から「ホスピタリティ」へと発展させていく。</p>	<p>○遅刻者には、時間を守ることやSHRに出席することの大切さを本人・保護者に伝える等、安易な遅刻・欠席が減るよう、その都度指導する。 ○全校で決めた数値目標を達成しようと努力することが学校の一員としての意識の高さであることを伝えていく。 ○登校した生徒から読書を開始し、8:30には静かな状態となり遅刻できない雰囲気为学校全体で作り出す。 ○朝読書に おすすめ本のコーナーを設置し、図書館の本の利用と読書の推進に努める。 ○校外での服装・あいさつを含むマナーやルールを守るよう日常的に指導する。また、日常会話の中で、正しい敬語が使えるように指導していく。 ○なぜ+αなのかを意識させ、取組に対するこだわりと誇りを持たせる。 ○生徒リーダー(ルーム長、生徒会執行部、各部キャプテン等)への啓発活動を行い、生徒同士で注意し合え、改善について話し合えるような集団づくりを進める。また、様々な場面で「報告・連絡・相談」ができるよう指導していく。 ○毎月の服装指導で身だしなみの点検を行い、いつでも就職試験が受けられる姿の確認をする。 ○自転車の二重ロックと駐輪の仕方を指導することで、防犯と公共のマナーを意識した行動が取れるようにする。 ○携帯・スマホ利用に関するクラス目標が守られているのか定期的に点検する。また、家庭とも連携協力しながらクラス目標の徹底を図る。</p>	<p>○遅刻は年間43回以下を目標にしているが、現在48回(昨年59回)である。そのうち防げる遅刻は22回(昨年28回)で、昨年に比べ遅刻者は減っている。 ○進路変更を考えたり、生活に不安を抱える生徒が若干名出てきたが、それ以外の出席状況は良好で、遅刻も怠惰が理由のものはない。 ○登校した生徒から朝読書を始めるという雰囲気を作れなくなってきているクラスがある。 ○季節や学校行事に合わせて展示や特集を組んだり、朝読書に おすすめの本を図書委員や有志の生徒に選んでもらうなど生徒の目線で提示したりすることで図書館の利用促進を図った。 ○服装指導は月1回実施している。再検査の対象者数はのべ399人(1回平均約17%)、内訳は1年152人(10回実施)、2年158人(10回実施)、3年89人(9回実施)、内容は約5割は髪型、残りはその他の項目である。 ○3年生を対象に、全教職員で面接、挨拶、マナー指導を行った。 ○服装検査が終わりに体育館の出口辺りで、前髪を留めていたピンを外したり横髪を出す女子生徒が数人いる。 ○3年間の学習の集大成である全校課題研究発表会で、1、2年生の前の3年生の髪がきちんとしていない生徒がいた。 ○校内での服装については乱れが一部の生徒に見られる。 ○授業開始時等のあいさつの声が小さく分離礼の状況も若干不揃いである。 ○あいさつに表情や元気がない生徒が多い。学年差や個人差も見られ、こちらが求めているレベルに達していない。 ○科リーダーが運営する科集会を毎月1回実施中。礼法指導も科リーダーを中心に行っている。 ○玄関前であいさつしている生徒や、地域の民生委員の方々のあいさつに対して、無言で通り過ぎる生徒や相手を見ずに小さい声で形だけのあいさつをしている生徒が約8割いるのが現状である。 ○生徒アンケートの中に、「あいさつを返してくれない先生がいる」という意見があった。 ○自転車の駐輪状態や二重ロックの実施状況は概ね良好であるが、校外で二重ロックができていない生徒が多い。 ○工具の整理整頓など、後片付けができていない状況がある。 ○執行部、学校祭実行委員など、リーダーとして前に立つ生徒が減っている。 ○各部部长、代議員への連絡、注意などが全体に伝わらないことがある。</p>	<p>○伝え続ける。 ○来館者や貸出冊数などは増えたが、普段利用しない生徒へのより一層の働きかけを行う。 ○事前予告した検査では、再検査なしを目指すとともに、日頃から全職員が共通理解のもとに指導を継続する。 ○あいさつ、マナー、礼法指導等今後も継続的な指導に取り組んでいく。 ○実態を伝える。強制ではないが、テニス部だけではなく、他の部や生徒会執行部など、自分たちもあいさつを呼びかけようという生徒の動きが出てくると変わってくる。 ○挨拶や服装について、様々な場面での働きかけを継続していく。 ○なぜきちんとした服装や挨拶が必要なのかを語る職員自身が、あいさつや服装をきちんとする。 ○服装の乱れに気づいたらその都度指導する。 ○片付けに対する教員の意識を高める。 ○今後も継続して、情報モラルについてルール作りや運営について促していきたい。 ○リーダー生徒の意識をさらに高める。</p>	
2. 就職と進学に応えられる学校づくり	<p>地域や企業と連携し、実践的な『キャリア教育』を推進し、生徒の興味・関心や適性に応じた進路実現を目指す。 資格や検定の取得を促すことで基礎学力の定着と主体的に学ぶ姿勢を育てる。 早期に進路意識を持ち就職・進学に対応できる学力を身に付けられるような支援体制を整備する。</p>	<p>自分の進路を自覚し、目標を持って入学してくる生徒もいるが、具体的進路目標が定まっていない生徒も少なくない。また、基礎学力の定着や文章力、表現力に不十分さがある。 就職希望者支援体制については、ほぼ完成されているが、進学者指導に関しては、個別指導に頼る部分が多い。特に4年制大学への進学指導については大学固有の入試制度の研究など支援体制の整備が必要である。 各教科で公開授業を計画的に行っているが、教科の枠を越えた組織的な授業研究には至っていない。</p>	<p>○低学年からの進路意識の向上(インターンシップ・デュアルシステム(ビジネス実習)の事前事後指導を充実・徹底させる。 ○「進路だより」等を利用して、本校の卒業生の進路達成までの学習への取組やアドバイスを紹介し、早めに意識することの大切さを伝える。 ○基礎学力の定着と表現力を向上させる。 ○生徒全員の家庭学習時間が平日1時間以上、休日2時間以上を目指す。</p>	<p>○個人面接を積極的に行い、早期に進路意識を高める。 ○インターンシップ・デュアルシステム(ビジネス実習)の事前事後指導を充実・徹底させる。 ○「進路だより」等を利用して、本校の卒業生の進路達成までの学習への取組やアドバイスを紹介し、早めに意識することの大切さを伝える。 ○進路指導部と学年団・教科との連携を密にし、学力分析や指導方法について検討していく。 ○基礎力診断テストの学習状況調査を活用し、家庭学習と成績との関連を振り返らせ家庭学習の大切さを伝える。 ○朝テスト(2・3年)を実施する。 ○進路指導部を中心に大学調査・大学訪問を実施し、入試制度やデータの研究蓄積を進める。 ○2年生12月以降は3年0学期を意識しながら進路指導に取り組み、2月学年末考査後には進路実現に向けて具体的な行動ができるように個別に指導していく。 ○年間2回の授業評価アンケートを実施し、1回目の評価結果をもとに授業改善に取り組み2回目のアンケートを実施する。また、学校全体での集計分析を進める。 ○公開授業等への教科の枠を越えた参加者を増やしていく。 ○「はい」「いいえ」の後に「はい、○○」「いいえ、○○」というように、自分の考えを表出できるような会話を目指す。 ○生徒の思考を促し考え方を意見交換し合えるような授業を工夫する。 ○図書館の検定資格取得コーナー、進路や教科指導に関する本を充実させる。 ○資格取得・上級資格取得のための補習を計画的に行うとともに出席管理もきちんとして充実したものとす。 ○「忘れました」を見逃さない。</p>	<p>○低学年次の学習習慣が付いていない現状がある。 ○インターンシップを予定どおり行った。クラス単位で報告会を行い、事前事後の指導を含め、職業観、勤労観の育成を促すことができた。 ○「インターンシップ」「ビジネス実習」として、勤労観や就業意識が身に付いてきている。 ○進路講演会、進路学習会、進路説明会、進路LHR等を行い進路意識を持たせることに努めた。 ○積極的に応募前見学会に参加させ就職試験に備えた。 ○全職員による作文・小論文指導を行った。文章を書くときの基本的な知識の定着を図った。 ○面接指導では進路希望の確認に併せ、その実現に向けた科目選択の指導も行った。 ○定期考査や模試結果、ハイパーOJ診断結果を見ながら生徒指導を行った。基礎力診断テストの結果から見ると学力面は比較的良好であったが学習時間が減少気味である。 ○「インターンシップ」「ビジネス実習」を終えた2年生全員の感想文を小冊子にし、全事業所に配布した。その反響は大きく、実習の取り組み方に変化が出てきた。 ○基礎学力が身に付いていない生徒に対して補習等を実施するも、一時的には理解した反応を示すがしばらくすると忘れてしまい、学力が定着していないことが多い。 ○基礎力診断テスト実施前には事前学習課題を行い、実施後は各教科・進路指導部で今後の指導について方策を考え実施した。 ○公開授業への教科の枠を越えてまで参観ができる時間的な余裕がない。 ○学習指導委員会を開き、生徒の志望動向情報を共有し、指導体制の検討・確認を行った。 ○大学進学希望者のため大学を訪問し大学調査を行った。 ○本年度も求人確保のため県外企業についても積極的に訪問させていた。 ○2年生については、早期(1月)に進路説明会を行い生徒・保護者に情報提供を行うことにより、進路意識を持たせ来年度への準備を進めている。 ○学年が上がるにつれて自分の考えを表出できるような会話ができる生徒が、少しずつ増えてきている。 ○技能検定(保全・旋盤)について放課後、休日を使い指導を行うことができた。 ○検定合格に向けて、意欲を持って取り組んだ生徒が多かった。 ○検定合格や資格取得に向けた指導を計画的に進めており検定合格者・資格取得者は、概ね例年どおりであったが一部結果を伴わないものがあった。 ○進路を考えるための本を集めたコーナーを作るとともに、資格・検定のための本も適宜購入し充実を図った。 ○提出物に対して、本人に指導したり保護者へ連絡するなど、丁寧に指導できている。 ○科に関する提出物は期限が守れている。</p>	<p>○1、2年生への進路指導を充実させる。 ○企業見学における生徒の反応は大変良かったので、今後も実施し、進路意識の高揚に役立てる。 ○日頃から、現場の雰囲気を生徒に伝えるような工夫をする。 ○さらに日常的に教育活動の中で継続的に指導する。 ○「インターンシップ」や「ビジネス実習」をとおして、企業との連携を深め、新たな受け入れ事業所開拓にも努める。 ○引き続き進路意識の高揚に努めていく。 ○3年生だけでなく、1、2年生から週1回の基礎力朝テストを実施するなど、具体的な対策を行う。 ○短時間でも、努めて学び直しの時間を組み込むような授業展開を心がける。 ○公開授業での研修だけではなく、生徒アンケート・保護者アンケートの中に出てきた授業に関する意見に対し、授業担当者は改善を試みる。 ○旋盤の技能指導については多くの時間と労力を要するため、指導体制を工夫する。 ○今後も積極的に取り組む。 ○受験の種類や時期等を再検討して指導していく。</p>	

3. 地域・地元可愛さ、信頼される学校づくり	PTA・地域との交流を深め、保護者・地域の方が教育活動に参加できる機会を増やす。 広報活動に力を入れ、学校理解・PRに努めるとともに、地域・産業界との交流を進め相互理解を深める。 学校評価を活用しながら教育活動の改善を進め地域からの信頼度を高める。	学校行事カレンダーやWebページ等により、保護者や地域、企業の方に学校の様子を知ってもらえるようになった。 また、課題研究等による地域との交流活動が定着し、好感を持って地域に受け入れられている。 中学校へ出向いての学校説明会や本校での学校説明会・学校紹介DVDにより中学校教員の本校への理解は進んできたが、中学生及び保護者の理解はまだ十分とは言えない。 学校評価アンケートを実施し集計を行っているが、評価結果および分析結果を改善に活用するまでにはなっていない。	○PTA総会・PTA研修会参加者を増やす。	○学校行事や部活動成績、各科の取組などの情報発信回数を増やすとともに、発信内容の充実を図る。 ○PTA総会の参加者を増やすために、公開授業・部活動の実演・学年懇談会を継続し充実させるとともに、参加してみたいと思えるような取組を検討する。	○総会の参加者は昨年に比べて5割くらい増えた。 ○PTA研修会の参加者は昨年に比べて約2倍であった。 ○PTA人権教育研修会は、知名度の高い講師を呼んだことで、参加者が多かった。(80人)	B	○行事や委員会等についても、さらなる呼びかけや早期の情報提供を行い、参加者が増えるようにする。 ○課題研究の一層の充実を図っていく。 ○魅力あるものとなるよう検討する。
			○小中高大社連携の一層の促進を図る。	○課題研究・ボランティア活動をととして、積極的に地域との交流機会を設け、活動内容を充実したものとしていく。 ○進路指導部を中心に定着指導・求人依頼や企業開拓のため県内企業を積極的に訪問し、本校への理解を促進していく。	○「地域や人と連携した課題研究」も10年目となり、年々充実した内容となってきている。 ○新たに「くらそうビジネスセミナー」を開設し、中学生体験入学での指導、研究発表会への参加、倉吉市活性化のための提言など活動を広げている。また、中国商業研究発表大会に鳥取県代表として参加し、高い評価を受けた。 ○社会人講師による技能指導、こども科学まつりへのボランティア参加など、校外との交流の場を設けることができた。 ○上北条小学校2年生との交流や高大連携事業など生徒は意欲的に取り組んでいた。 ○生活と福祉、課題研究(くらそうサロン)の授業等において、公民館、保育園、高齢者福祉施設などとの交流を積極的にに行った。 ○鳥取県福祉ヘルプメイトなどボランティア活動も積極的に行うよう促した。 ○定着指導、企業開拓、求人依頼のため多くの企業を積極的に訪問し、本校への理解を促進した。		○アンケートを大切にするという意味でも、集約を職員全員が目を通せるようプリントにまとめ配付する。
			○中学生の本校志願者数を増加させる。	○学校祭・実習棟公開・中学生工作教室等で各学科をPRしていく。 ○本校の生徒や卒業生が、実際に中学校に赴き、本校の紹介とPR活動を行う。	○学校祭では、科の特色を生かした取組みができた。約730名の来場者があった。 ○学校祭において、展示、実習作品配布などにより学科PRを行った。 ○工作教室を開催してPRIに努めている。学校祭では電気科独自の企画で取り組めた点は良かった。		○学校祭では、科の特色を生かした取組みができた。約730名の来場者があった。 ○学校祭において、展示、実習作品配布などにより学科PRを行った。 ○工作教室を開催してPRIに努めている。学校祭では電気科独自の企画で取り組めた点は良かった。
4. ものづくり教育の推進	地域産業界や企業等と連携し、専門分野についての基本的知識・技術を持ち、チャレンジ精神に富んだ人材を育成する。 学科の枠を越えて生徒理解を図り、「ものづくり」に協力して取り組む体制づくりに努める。	「ものづくりコンテスト」への取組や社会人講師による指導によって、より高いレベルの技術を習得しようとしている。また、技術を習得するだけでなく、習得した技術を社会に活かそうとする取組も行われている。今後は、専門科間の一層の連携を図ることやコンテストにおける上位大会出場を目指していきたい。	○ものづくりコンテストを目指した取組を一層推進する。	○地域産業界との連携、社会人講師による指導を継続していき、技能の向上とコンテストの上位入賞を目指す。	○社会人講師による技能指導を実施できた。 ○ものづくりコンテスト旋盤への参加者を確保することができなかった。 ○ものづくりコンテスト電気工事部門で、中国大会3年生は5位・県大会2年生は4位であった。	A	○ものづくりコンテストへ向けて、指導体制を検討する。 (生徒の部活動との兼合い、教員の指導負担、作業安全)
			○技術系クラブ活動を一層充実させる。	○文化・技術系クラブの活動を地域の方にも理解してもらえるような企画を工夫していく。	○各部とも大会参加のみならず、学校祭や上北条祭りでの作品展示、吹奏楽部のさまざまな場面での演奏など地域に向けての取組みができた。		○情報科募集停止に伴い、来年度も選択科目について検討する。 ○選択の専門科目について、教育課程全体の配置を含めて検討する。 ○生徒の状況、進路先にあわせて有効となる選択科目を検討する。
			○学科間連携を促進させる。	○生徒の実態に合わせて、総合選択制が有効に機能するように選択群のあり方を検証していく。 ○課題研究などで学科間の連携を進める。 ○学校祭の様々な共同制作を充実させる。	○過去数年の開講の実態を鑑み、来年度に向けて選択科目について検討した。 ○課題研究において、「くらそうサロン」「くらそうや」をととして、他学科との連携が見られる。「くらそうや」では情報科の協力を得てPOSシステムを導入した。 ○学校祭の企画において各科の協力を得ることができた。 ○「くらそうや」は今年度で10周年を迎え、企画商品、オリジナル商品を開発し、また、ユニフォームも一新して新たな段階へ進化しつつある。 ○くらそうサロン、くらそうや商品開発など課題研究をととして、生活デザイン科とビジネス科の連携を進めた。		○「くらそうや」で、学科間の一層の連携を図る。

評価基準 A:十分達成(95%) B:概ね達成(80%程度) C:変化の兆し(60%程度) D:まだ不十分(40%程度) E:目標・方策の見直し(30%以下)